SAPPORO

令和４年３月 18 日　発行
編集・発行　丘珠まちづくりセンター

おかたま通信 vol.18

丘珠まちづくりセンターで各種証明書が受け取れます

◎受付時間：８時 45 分～16 時 45 分（お渡しは翌開所日の 14 時 30 分以降）
◎開所日時：月曜日～金曜日（祝日、12 月 29 日～翌年１月３日を除く）
８時 45 分～17 時 15 分

証明書	利用できる方	証明書発行に必要な書類
住民票 ※住民票ｺｰﾄﾞ・ﾏｲﾅﾝﾊﾞｰ（個人番号）入りの住民票は取り扱っていません。	本人・同一世帯員 ※上記の方に頼まれて代理人が請求する場合は「委任状」が必要	来所者の本人確認ができる次の書類のうち１点 ・ﾏｲﾅﾝﾊﾞｰｶｰﾄﾞ（個人番号ｶｰﾄﾞ） ・運転免許証 ・健康保険証 ・介護保険証 ・年金手帳等など
印鑑登録証明書	本人または代理人	印鑑登録証（ｶｰﾄﾞ）
戸籍関係の証明	札幌に本籍のある方で、本人・配偶者・直系血族 ※上記の方に頼まれて代理人が請求する場合は「委任状」が必要	来所者の本人確認ができる次の書類のうち１点 ・ﾏｲﾅﾝﾊﾞｰｶｰﾄﾞ（個人番号ｶｰﾄﾞ） ・運転免許証など これらの書類がやむを得ず提示できない場合は、次の書類のうち２点 ・健康保険証、介護保険証、年金手帳などの書類を２点

※住民票、印鑑登録証明書は電話でも申し込みできます。
※詳しくは、丘珠まちづくりセンター（TEL011-781-4283）にお問い合わせください。

各種証明書の取次でよくある質問

◎申し込んだその場で証明書を発行してもらえますか？

・丘珠まちづくりセンターでの証明書のお渡しは、受付した日の翌開所日の 14 時 30 分以降となります。

（例）受付が 12 月 28 日の場合、お渡しは 1 月 4 日、14 時 30 分以降
受付が 1 月 6 日の場合、お渡しは 1 月 7 日、14 時 30 分以降

日	月	火	水	木	金	土
12月26日 お休み	12月27日 開所	12月28日 開所 受付	12月29日 お休み	12月30日 お休み	12月31日 お休み	1月1日 元旦 お休み
1月2日 お休み	1月3日 お休み	1月4日 開所 お渡し	1月5日 開所	1月6日 開所 受付	1月7日 開所 お渡し	1月8日 お休み

・丘珠の近辺では、篠路出張所、札苗まちづくりセンターで、申込当日に、その場で証明書を発行できます。

◎マイナンバー（個人番号）入りの住民票が欲しいのですが・・・

・丘珠まちづくりセンターでは、マイナンバー（個人番号）入りの住民票を発行できません。

・丘珠の近辺では、篠路出張所、東区役所で、マイナンバー（個人番号）入りの住民票を発行できます。

◎平日以外でも住民票や印鑑証明を発行してもらえますか？

・平日以外の住民票や印鑑証明の発行は、以下のとおりです。

	受付時間	お休み
大通証明ｻｰﾋﾞｽｺｰﾅｰで受け取る	・平日 9 時 00 分～20 時 00 分 ・土日 9 時 00 分～17 時 00 分	・祝日(日曜日と重なる場合は開所) ・振替休日 ・12 月 29 日～翌年 1 月 3 日 ・5 月 3 日～5 日
ﾏｲﾅﾝﾊﾞｰｶｰﾄﾞを使用してｺﾝﾋﾞﾆ等で受け取る	・6 時 30 分～23 時 00 分(コンビニエンスストア店舗営業時間内に限る。)	・12 月 29 日～翌年 1 月 3 日 ・システムメンテナンス日
事前に予約してお住まいの区の区役所で受け取る	・受取予定日直前の区役所開庁日(8 時 45 分～12 時 15 分、13 時 00 分～15 時 00 分) ※受取は、予約日の次の土・日・祝日の 9 時 00 分～17 時 00 分 [お問合せ先]東区役所戸籍住民課 (TEL741-2449)	・12 月 29 日～翌年 1 月 3 日及びこれと連続する休日

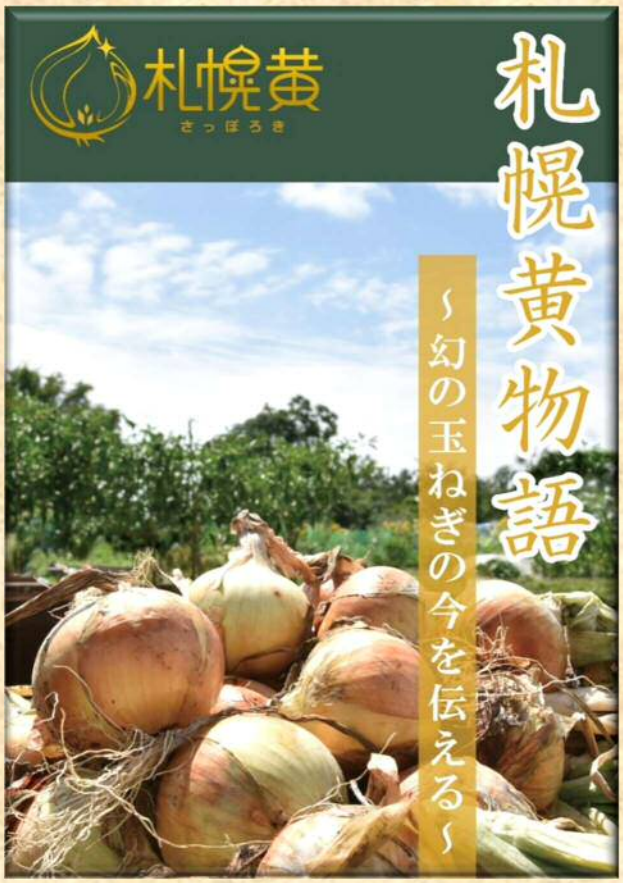
「札幌黄物語」が新しくなりました

平成25年３月に初版を発行した小冊子「札幌黄物語」。作成から９年近くが経過し、掲載された情報が古くなったことから内容を更新することとしました。

札幌黄の魅力のひとつである、札幌黄の歴史に関する記述はそのまま掲載し、一方で、栽培に関する記述は写真を多く使うことで小学生でもわかりやすい内容としました。

また、東区が地域連携協定を締結している「天使大学」「札幌保健医療大学」栄養学科生考案の、札幌黄を活用した料理レシピも新たに掲載していますので、是非お手に取って、お読みいただけると幸いです。

令和４年３月下旬頃、東区役所や各まちづくりセンターで配架予定です。



「我が国の玉葱栽培この地にはじまる」

札幌村郷土記念館にこの碑が置かれたのは、昭和53年の秋であった。その頃、北海道で玉ねぎと言えば札幌黄のことであり、「俺たちが元祖なんだ」と玉ねぎ農家たちが誇らしげにこの碑を見ていたことは想像に難くない。しかしその後から札幌黄の凋落がはじまり、危うく種が絶えるところまで生産量が激減したものの、今日ではまた脚光を浴びてきている。

波乱万丈の歴史を歩む札幌黄。その栄枯盛衰の物語を、始まりから振り返ってみよう。

1

1　札幌黄、その始まり

北海道に玉ねぎがもたらされたのは、明治４年、開拓使によって札幌官園（偕楽園内の試験場：現在の札幌市北区北６条西６丁目）で、アメリカから持ってきた種子を栽培したのが最初とされている。しかしながら、栽培結果が残っておらず、栽培方法が札幌黄の栽培方法と異なっているため、これが札幌黄の原種だとは考えられていない。

明治10年、ウイリアム・P・ブルックス博士は、「青年よ、大志を抱け」で有名なクラーク博士の後任として、札幌農学校に着任した。残念ながら、ブルックス博士が、札幌黄の原種と言われる「イエロー・グローブ・ダンバース」を持ってきたという直接の証拠は無いが、この品種が博士の故郷であるマサチューセッツ州原産であること、栽培方法（春に種を直に畑にまく）が同じであることなどから、彼が札幌に「イエロー・グローブ・ダンバース」を持ち込んだことは間違いないと考えられている。

ブルックス博士。20代半ばから30代半ばまで札幌農学校で教鞭をとった

この頃、札幌にはいくつもの開拓地があったが、大友亀太郎により開拓された札幌村（現在の東区南西部）は、最も古くから入植が進んでおり、また札幌農学校から比較的近かったため、ブルックス博士が地域の農家に作物の栽培を指導することも多かったという。その結果、多くの農家が玉ねぎ栽培を始めたとされ、札幌村が玉ねぎ栽培の発祥の地となった。しかし、当時は玉ねぎを見たことが無い人が大多数であり、また交通網が発達していない時代であったため、ほとんどは自家用として消費され、販売には至らなかった。

2　販売への挑戦

明治13年、札幌村の中村磯吉という農家が、一町歩（≒今の１ha=100m×100m）の畑で玉ねぎ栽培に成功し、ちょうど東京に北海道物産取扱所ができたことから、水路にて東京へ運搬して販売を試みた。しかし、見慣れない野菜は全く受け入れられず、泣く泣く全て廃棄して帰ってきたという。

中村磯吉。莫大な借金を抱えたものの、それでも玉ねぎを作り続けた彼を「玉ねぎ栽培の祖」と呼ぶ人もいる

その後、道内の炭鉱の従業員用として、また他の薬物野菜より長く保存できることから、航海用としての需要が高まり、少しずつ販路が広がってきた。やがて、同じく札幌村の武井惣蔵が、直接販売ではなく商人に販売を委託することで商業的にも成功を収めた。明治13年の末、札幌―手宮（現在の小樽）間に鉄道が開通し、流通面が整備されてきたことも一因となり、これ以降、玉ねぎ栽培は急速に拡大していくこととなる。

2

3　玉ねぎ栽培の拡大と札幌黄の登場

札幌の玉ねぎの収穫量は、天候による上下はあったものの、開拓が進み、畑が開墾されたこと、また他の作物より商業的に有利と考えた農家が、果樹栽培などから玉ねぎ栽培に鞍替えしてきたことにより、年々増加していった。また、明治19年の10アール当たりの収穫量は、約１トンであったが、時代が下り明治36年から38年の平均の収穫量は、おおよそ３倍の約2.9トンまで増加するに至った。

種まき機を使う農家。筒の中に種が入っており、地面を転がすと種が出てくる仕組みになっている

ここまで収穫量が増加した要因としては、需要の増加により、玉ねぎ農家が札幌村からさらに篠路村（現在の北区篠路）や白石村（現在の白石区）などへ広範囲に増えてきたことと、農家による品種改良が進んだこと、また、札幌村で生まれた「種まき機」や「乾燥機」などの発明が、農家の作業を効率的にしたことも見逃せない。

そんな中、明治35年に北海道農事試験場が開場され、玉ねぎの研究が進んで、ついに文献にて札幌黄の文字が登場することとなる。明治39年に同試験場

まちセン掲示板

札幌丘珠空港からのお知らせ

丘珠空港では、来たる夏ダイヤ（3月27日～10月29日）から、ＨＡＣ（㈱北海道エアシステム）が「利尻便」を現在の１日１往復から土日祝日を中心に１日２往復へ増便するほか、「女満別便」が毎日２往復となり、更に「奥尻便」についても引き続き土日祝日に１往復運航することとなりました。

また、ＦＤＡ（㈱フジドリームエアラインズ）は、同期間に「静岡便」の運航を再開（１日１往復）するほか、これまで期間限定運航であった「松本便」も同期間中毎日１往復運航することとなりました。

札幌丘珠空港ビルは２月21日をもちまして開業30周年を迎えることができました。これもひとえに地域の皆様のご理解・ご協力の賜物であり、この節目の年を迎えることができましたことを大変うれしく思います。

30周年記念事業として、遊覧飛行をはじめフォトコンテストや丘珠空港クロスワード、売店ではオリジナル商品（ハンカチ・キーホルダー）の販売、レストランでは当空港名物の「丘珠拉麺（おかだまラーメン）」「丘珠カレー」に次ぐ新たな名物メニュー「丘珠ポッケ240円（税込み）〔ピタパンをポケットにして、から揚げとレタスを詰め込み、カレールーは丘珠カレーを使用しています〕」の提供等を行って参りました。

今後も新型コロナウイルス感染症対策に努め、安全安心を最優先にしながら、より良い空港を目指して参りたいと存じますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

丘珠まちづくりセンター（〒007-0880　東区丘珠町183番地２）
開所日時：月曜日～金曜日（祝日、12月29日～翌年１月３日を除く）
８時45分～17時15分
ＴＥＬ：011-781-4283　ＦＡＸ：011-784-8250
http://www.city.sapporo.jp/higashi/okadama/index.html

丘珠まちづくりセンター

さっぽろ市
02-Q01-21-1429
R3-2-997